



朱三学校だより

特別号

学校評価特集



平成31年3月18日
京都市立朱雀第三小学校
校長 小林 一弘

Tel 312-3203

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/suzakudai3-s/>

学校教育目標

協働・挑戦・前進

学校評価アンケートありがとうございました

2月に保護者の皆様のご協力を得て、学校評価アンケートを実施いたしました。保護者の方からいただきましたご回答の集計結果をグラフにまとめましたので、その結果をお知らせいたします。なお今回は、今年度前期の結果と比べた結果について報告します。お忙しい中ご協力いただき、本当にありがとうございました。

<回答数について>

・約290名の方から回答をいただきました。実施期間の児童数が333名（家庭数266）でしたので、約87%の方のご意見をいただいたことになります。

※児童は、A…あてはまる B…どちらかというあてはまる

C…どちらかというあてはまらない D…あてはまらない で答えました。

保護者の方には、A…満足 B…おおむね満足 C…やや不満 D…不満で答えていただきました。

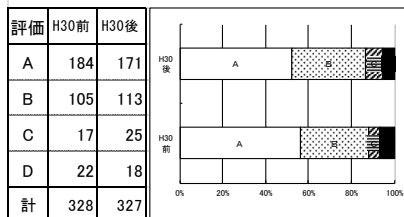
上：H30 後期

下：H30 前期

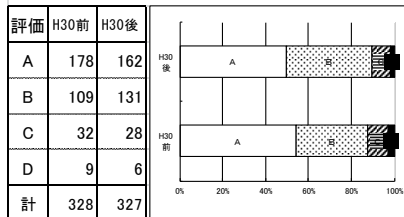
児童学校評価～学校生活アンケート～ 平成30年度後前期と平成30年度後期の比較

児童学校評価～学校生活アンケート～

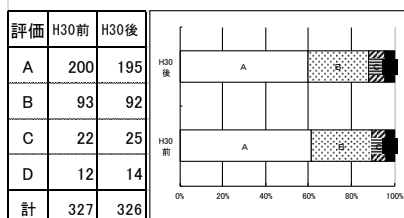
① 学校に来るのが楽しい。



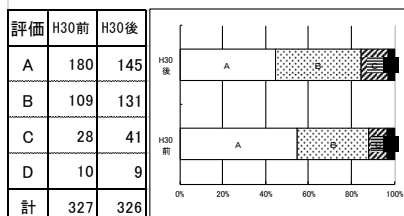
② 授業の中で「できた・わかった・力がついた」と感じる。



③ 担任の先生や他の教職員から大事にされている。

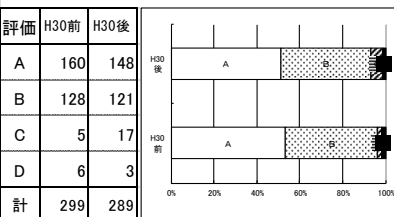


④ 学校のルールやマナーを守っている。

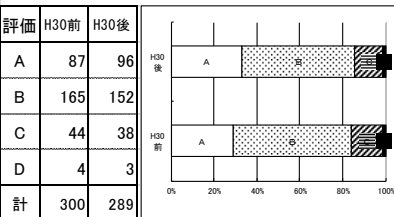


保護者学校評価（１）～保護者から見た子ども～

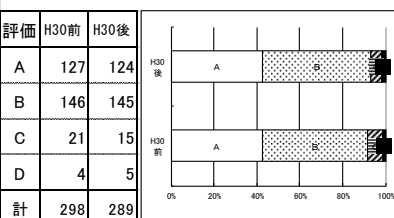
① 毎日楽しそうに学校に通っている。



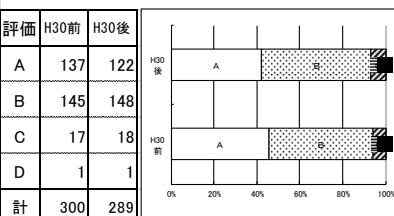
② 学校の学習において、基礎的な力が身についている。



③ 学校の教職員から大事にされていると感じている。

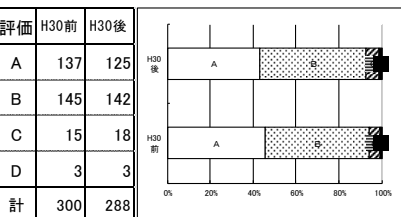


④ 学校のルールやマナーを守っている。

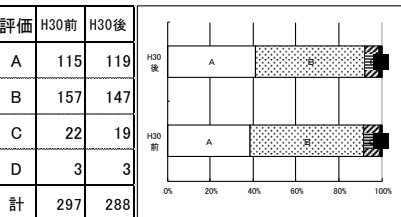


保護者学校評価（２）～保護者から見た教職員～

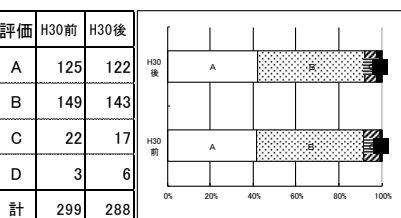
① 子どもが楽しく通える学校になっている。



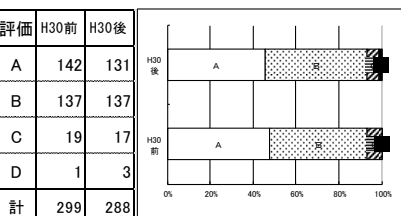
② わかりやすい授業をしている。



③ 子ども一人ひとりを理解し、大切にしようとしている。

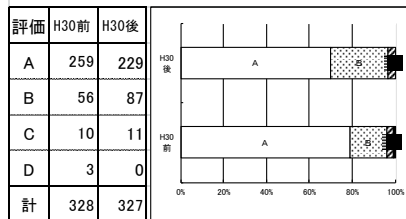


④ ルールやマナーについてきちんと指導している。

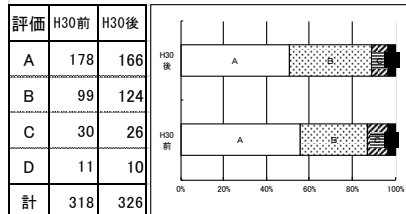


児童学校評価～学校生活アンケート～

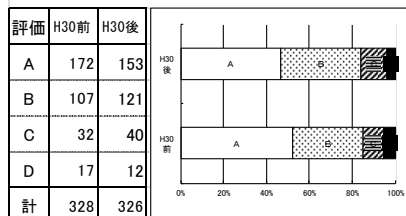
⑤ 友達を大切にしている。



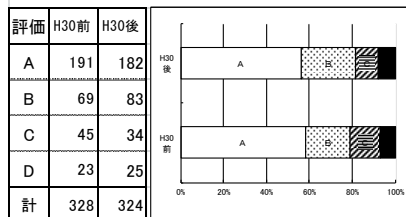
⑥ 係活動やお手伝いなど、人のために役に立つことをしている。



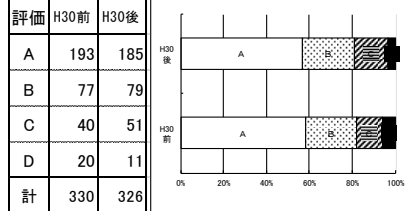
⑦ 毎日、早寝早起きをして、朝ごはんを食べている。



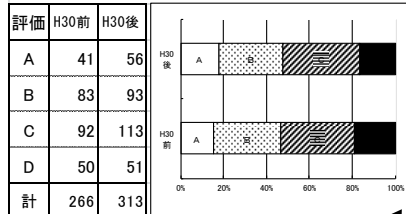
⑧ 学校での様子やできごとを家で話している。



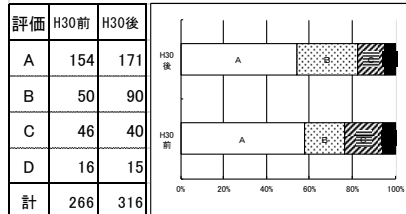
⑨ 自分から進んで体を動かしている。



⑩ 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、家で勉強をしていますか。

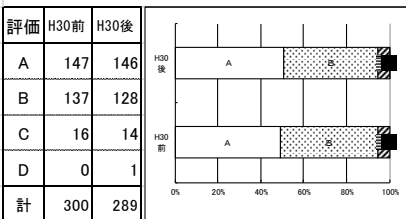


⑪ 1週間でどれくらいの時間、本を読んでいますか。(学校での読書も入ります)

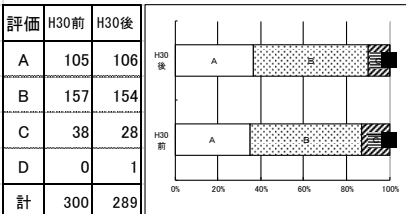


保護者学校評価(1)～保護者から見た子ども～

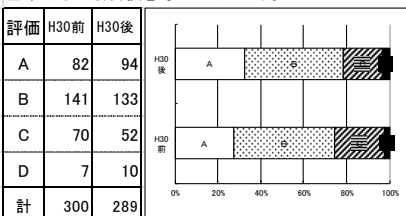
⑤ 友達を大切にしている。



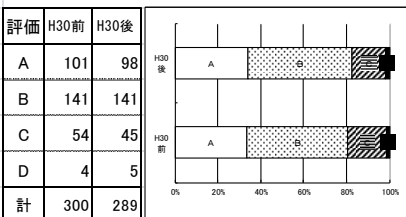
⑥ 人のために役に立つことをするように心がけている。



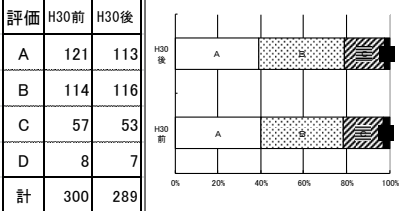
⑦ 早寝早起き・朝ごはん・歯磨き・次の日の準備など、基本的な生活習慣を身につけている。



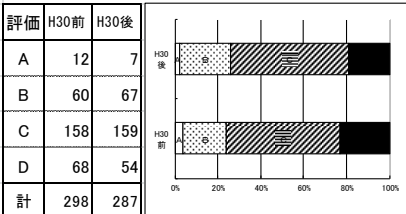
⑧ 学校での様子やできごとを保護者に話している。



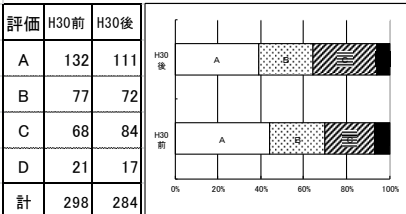
⑨ 自分から進んで体を動かしている。



⑩ 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、家で勉強をしていますか。

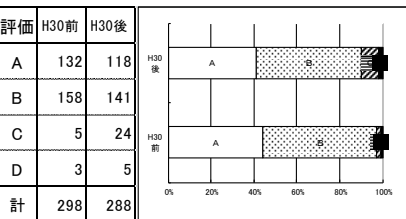


⑪ 1週間でどれくらいの時間、本を読んでいますか。(学校での読書も含みます)

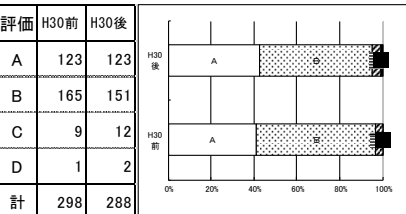


保護者学校評価(2)～保護者から見た教職員～

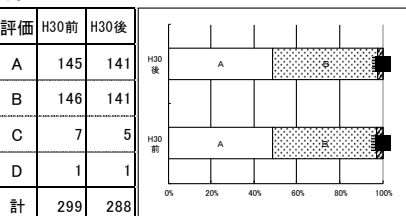
⑤ 子どもたちが仲良く過ごせる学級・学校づくりをしようとしている。



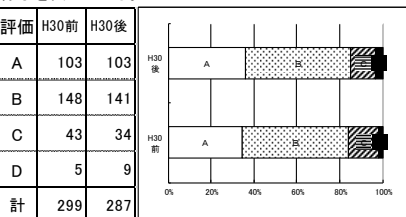
⑥ 係活動やお手伝いなど、人のために役立つ行動を認め、進めるような学級・学校づくりをしている。



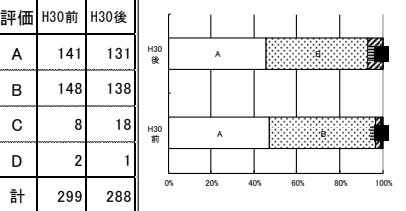
⑦ チャイムなどを守り、リズムある学校生活を送らせている。



⑧ よいことでもそうでないことでも、家庭に学校・子どもの様子を伝えている。



⑨ 運動好きな子どもを育てようとしている。



⑩ A・・・2時間以上
B・・・1時間以上、2時間未満
C・・・30分以上、1時間未満
D・・・30分未満

☆1年生児童(前期のみ)は、⑩⑪の項目のアンケートを行っていません。

⑪ A・・・1時間以上
B・・・30分以上、1時間未満
C・・・30分未満
D・・・全く読んでない

楽しく通える学校を目指して・・・

児童への設問1「学校に来るのが楽しい。」では、A・Bの割合が87%でした。それに関連しての保護者への設問「毎日楽しそう学校に通っている。」「子どもが楽しく通える学校になっている。」のA・Bの割合はそれぞれ93%でした。この結果から、子どもたちは学校生活を楽しみ、前向きな気持ちで過ごしている様子がうかがえます。しかし、それぞれの割合に着目すると、児童・保護者ともにA・Bの割合もAだけの割合も、前期に比べて減少しています。「子どもが楽しいと感じる学校」であるかは、学習・学級の雰囲気・友達関係・行事への取組など、様々な要因が考えられます。また、楽（らく）なことが「楽しい」ということでもないはずです。学校では、一人一人の児童が各学級で互いに認め合い、どんな学習・行事であっても努力したり挑戦したりした結果、「楽しい」と感じられることを目指しています。この設問の減少の結果は、学校全体で厳しく受け止め、今後も、すべての児童が「学校が楽しい。」という思いをもてるように、教職員一丸となり一人一人の児童としっかり向き合っていきます。

すべての児童に「学び」が実感できる授業を目指して・・・

児童への設問2「授業の中で、できた・わかった・力がついたと感じる。」では、A・Bの割合が前期よりも増えています。それに関連する保護者への設問のA・Bの割合も、前期よりも増えています。本校では、算数科を研究教科として定め、「児童が主体的に学ぶこと」「全ての児童に学びのある授業」を目指して授業改善に取り組んでおり、今回の結果からは、その成果がうかがえました。しかし、その一方でC・D評価についても看過できません。また、3・4年生の「プレジョイントプログラム」、5・6年生の「ジョイントプログラム」の結果を分析すると、基礎・基本の問題や表現力を試される問題において、まだ課題も見られました。つまり、授業の中で「できた」と感じていても、その力を確実に定着させることが本校の課題の1つであると考えます。

そこで、まずは基礎・基本の問題を、家庭学習でも繰り返し学習することが大切です。「授業の中だけでわかったつもりになっていないか」「家庭学習の習慣が確実に身に付いているか」など、さらなる指導の改善を行っていきます。

次に、表現力を高めるために、「主体的に考え、なぜそう考えたのか説明する力」を付けていけるような授業づくりをさらに推進していきます。授業では、課題に対して困っていることを話し合ったり、根拠を説明したりして、全員が「学び」を深められるように考えています。その手立ての1つとしては、ペアやグループで「説明し合う場面」をつくっていることです。インプットしたことを自分でアウトプットしてみると理解はより一層深まります。さらに、それを繰り返すことは「基礎・基本」の確かな定着にもつながると考えます。学習に関しては『学校からの働きかけ』と『ご家庭での関わり』のどちらも大切です。今後とも、児童の確かな学びが実現できるようご家庭との連携を図っていきますので、よろしくお願いいたします。



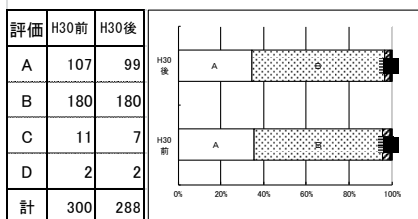
ルールやマナーを守る意識の高まりを目指して・・・

児童への設問4「学校のルールやマナーを守っている。」では、自信をもって「あてはまる」と答えた児童が、前期よりも減少しています。これは、児童が「まだ十分でない」と自らを厳しく評価した結果とも考えられますが、規範意識の低下は実際に学校内でも見られます。「学習規律、廊下を走らない、必要でないものは持って来ない、名札をつける、自分から挨拶する、公共な場所でのマナー」など、学校では授業や学校生活の中で、各学年に応じて話し合うようにしていますが、まだ課題は見られます。今後も学校全体で、また各学年で「みんなが気持ち良く過ごすためにルールやマナーを進んで守ろう」という意識を高めると共に、児童の発想を生かした取組も進めていきたいと考えています。

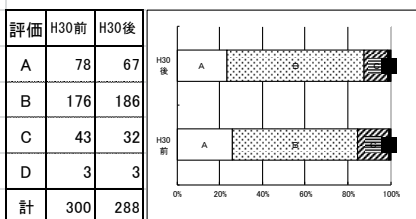
保護者学校評価（３）～保護者の家庭教育～ 平成30年度前期と平成30年度後期の比較

（A…満足、B…おおむね満足、C…やや不満、D…不満） 全校 平成30年度 京都市立朱雀第三小学校

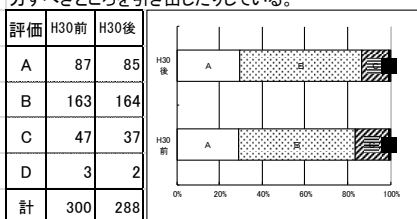
① 学校に気持ちよく通えるように支援している。



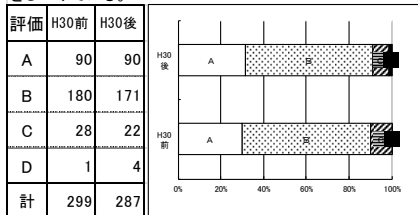
② 学ぶ目的をもたせ、やる気を引き出すように関わっている。



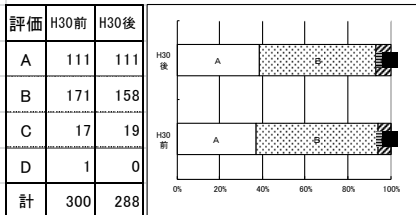
③ 子どものノートや作品を見て、よいところをほめたり努力すべきところを引き出したりしている。



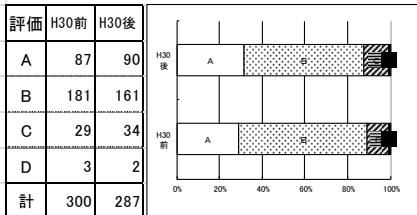
④ あいさつの習慣や善悪の判断など、守るべきことについては自分の子・他人の子に関わらず、温かく厳しく子どもをしつけている。



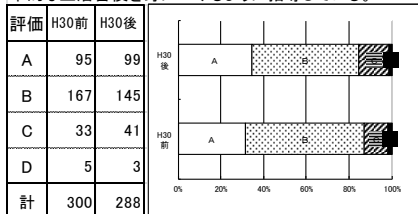
⑤ 友達を大切にすることの大切さを伝え、子どもたちが仲良く過ごせるように関わっている。



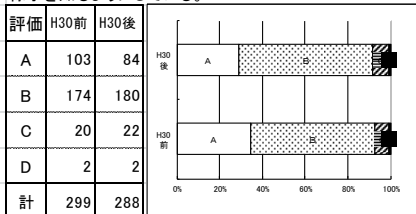
⑥ お手伝いなど、家族や他の人のために役に立つ行動の大切さを伝え、できることをさせようとしている。



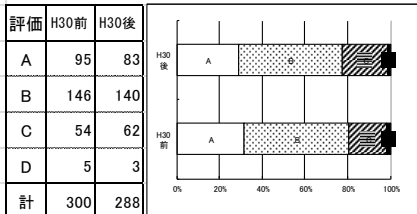
⑦ 早寝早起き・朝ごはん・歯磨き・次の日の準備などの基本的な生活習慣を身につけるように指導している。



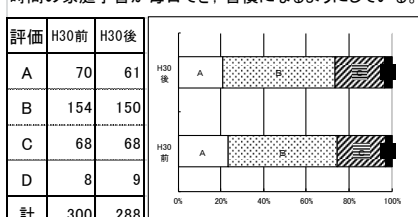
⑧ おたよりやHP、家庭訪問などを通して、学校・子どもの様子を知るようにしている。



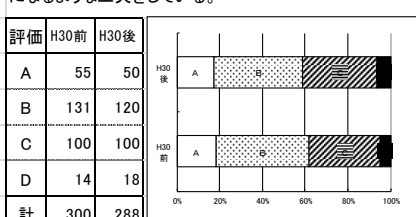
⑨ 子どもが進んで体を動かすようにはたらきかけている。



⑩ 家庭での学習環境や雰囲気作りなど、学年に合った時間の家庭学習が毎日でき、習慣になるようにしている。



⑪ 家庭で読書できる環境や雰囲気作りなど、読書が習慣になるような工夫をしている。



保護者の家庭教育の自己評価の結果から・・・

①～⑧の項目につきましては、前期に引き続きA・B合わせて80%以上の満足度が見られました。ご家庭で、日頃からご支援いただきましてありがとうございます。

⑨「子どもが進んで体を動かすようにはたらきかけている。」は、A・B合わせた評価が80%以下となり、前期より厳しい自己評価をされています。これは、冬の寒い時期ということも考えられますが、学校では室内にこもりがちな寒い時期にこそ進んで外で体を動かして「健やかな体」を育成していくことが重要だと考えています。そこで、校内マラソン大会に向けての「中間マラソン」を2週間実施したり、体育の縄跳びの学習をこの時期に設定して休み時間にも挑戦できるようにしたりしています。中には「校内マラソン大会に向けて、休日に親子で走った」という声を聞きました。ご家庭でも、よりよい運動習慣が身に付くために日々サポートしていただいているようです。体を動かすように声を掛けていただくことはもちろん、大人も自身の健康のために、子どもと楽しみながら体を動かすことも試されてはいかがでしょうか。今後も子どもたちのよりよい学校生活のためにご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

このほか、記述式で記入していただいたご意見もいただきました。皆さまからいただいた貴重な評価やご意見を、今後の取組に活かしていきます。ありがとうございました。